

第64回 京都ユネスコ協会 自然観察展

事務局

「自然観察展」は、10月4日、5日に元山王小学校体育館でおこなわれました。

今回、小学生の作品が23校より96点、中学生の作品は6校より23点、合わせて119点の応募がありました。部門別では、生物45点、物理14点、化学26点、地学15点、SDGs19点です。3日に京都市青少年科学センターの先生にお越しいただいて、19点の入賞作品を選びました。

両日とも雨天で出足が心配でしたが、出品者や家族親族、学校関係者や一般の方等、285名の参加者があり、熱心に楽し気に見ておられました。入賞作品の表彰状は、各学校に後日郵送予定で準備しています。

展示会場には寺子屋募金箱を置き、2日間で2,562円の募金を頂きました。芸術展での募金1,552円と合わせて4,114円を日本ユネスコ協会連盟に送りました。



「野外こども食堂 - 花背プロジェクト」

西川昭寛

2025年10月11日（土）、京都ユネスコこども食堂の野外活動として京北の花脊で“京都ユネスコこども食堂 IN 花脊”を行いました。参加者は子供と大人を併せて32名。プロジェクトは里山で「森の恵みを学ぶ食育」として二ホンミツバチの採蜜を体験し、採取した蜂蜜でパンケーキを作りました。昼食はカレーで満腹になり、午後は稲刈りの体験学習でお米作りを学びました。



京都ユネスコ寺子屋 旅の学校 2025 を愉しく実施！

吉田敦彦

■芸術家たちの生活と創造の場、訪れた人が自然やアートと触れ合う《匠(たくみ)の聚(むら)》。このアトリエで長年創作活動を行ってきた日本画家・岸上ゆかさん（京都ユネスコ協会理事）のアレンジで、子どもたちが親子で自然と交わりながらアート体験のできる一泊二日の小さな旅を、2025年8月28日～29日に実施しました。

■一般の宿泊参加者は、幼小中高校生10名、保護者9名。協会のユース3名（高校・大学生）、スタッフ4名。総勢26名で愉しく充実した学びができました。

■1日目、奈良県吉野郡川上村の名瀑・蜻蛉の滝に散策したあと、《匠の聚》のアトリエを見学したあと、研修室で、ワークショップをしました。今年は、自分で拾った岩石を乳鉢で磨り潰して自然素材の日本画の絵具を創り、それで好きな絵を描くワークです。夜には、森の昆虫観察のオプションもありました。2日目は、吉野伝統の紙すき和紙を使って造形作品をつくるワークショップを午前中に実施し、午後からは、不動窟鍾乳洞の探検を楽しみました。

＜国際平和デー2025＞セミナー

「ユネスコ教育勧告を私たちの未来」を盛況のうちに開催！

吉田敦彦

■京都ユネスコ協会は、日本国際理解教育学会ユネスコ教育勧告特別委員会と共催し、2025年9月21日(日)13時30分～17時、＜国際平和デー2025＞セミナー：「ユネスコ教育勧告を私たちの未来」を開催しました。

■会場のキャンパスプラザ京都2階ホールの定員いっぱいとなる、80名（＋報道関係者1名）の参加を得て、盛況でした。ユネスコ協会関係者14人、教員・教育実践者36人、行政機関2人、市民団体関係者6人、ユース・学生12人、その他10人と多様な背景をもつ参加者が集い、学びあいました。



■第一部（リレートーク）では、主催者から「なぜ今、ユネスコ教育勧告か」（吉田敦彦：京都ユネスコ協会会長）、「ユネスコ教育勧告の世界の受けとめ・広がり」（永田佳之：日本国際理解教育学会会長）、「ユネスコ教育勧告と民間ユネスコ活動」（木間明子：東京都ユネスコ連絡協議会事務局長）について概説した後、参加者の織田雪江さん(同志社中学・高校教員)、岡田明子さん(同志社大学生)、森田育志さん(元教員・大学教職関連部署)、山田文乃(IKUNO 多文化ふらっと)から、自らの活動を踏まえて教育勧告に期待することについてリレートークを行いました。

第二部（ワークショップ）では、ユネスコ教育勧告のカード型教材(勧告の「14の主導原則」の1つ1つに焦点を当て、簡潔な意識と、他者との対話を通して理解を深められる3つの問いを付置したカード型教材)を使い、5～6人のグループで主導原則の理解を深め、学校や地域の教育の可能性と課題解決のために何をいかに変えていけばよいのか？について対話形式のワークショップを実施しました。最後に全体会で、参加者が意見交換しながら、未来へ向けての展望を語り合いました。

■マルチステークホルダーの連携を図り、平和で持続可能な未来のための教育の実践を推進するという目的にかなうセミナーを開くことができました。第1部で専門家による簡潔なレクチャーで教育勧告の基本的理解を深め、第2部で年齢やバックグラウンドの違う参加者同士が対話を通して教育について深く考え、教育勧告についての理解を深めることができました。参加者からカード教材を使ったワークショップを開きたいという声も出て、ユネスコ教育勧告の普及の一助となったと考えます。

■本セミナーには、日本ユネスコ国内委員会、京都市教育委員会、京都府教育委員会、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)：ユネスコスクール事務局、ESD活動支援センター、近畿地方ESD活動支援センターといった全国規模の後援をいただきました。なお、本セミナーは、日本ユネスコ協会連盟のU-Smile事業の助成を受けて実施されました。

その他

「ビッグドロー」と「能へのいざない」のチラシチラシを同封します。